

札幌市石綿問題調査検証報告 【概要】

調査検証の目的

今回の札幌市における石綿問題に関する事実関係やその原因について分析し、札幌市の一連の対応、取組について調査検証するとともに、再発防止策等を取りまとめる。

札幌市の対応に対する評価

1 今回の石綿問題発生の要因

- (1) レベル2^{注1}の石綿及び煙突断熱材の劣化に対する認識の甘さがあったこと。
- (2) 石綿問題発生以前において、煙突断熱材に関する注意喚起等の通知などがあったものの、煙突断熱材に対する積極的な対応がなされなかったこと。

2 文科省通知への対応

- (1) 平成 26 年文科省調査に対して市教委は必要な調査を実施せず、平成 18 年に実施した別の調査結果を流用して回答。市立小中学校に関しては、この不適正な対応が石綿問題発生の原因。
- (2) 平成 26 年における不適正な回答、その後の対応については、市教委の組織運営、組織マネジメントにも問題があったこと。

3 石綿問題に対する札幌市の取組体制

初動において対策本部等を設置して対応する等、取組体制を整え、統一的に対応すべきであったこと。

4 市民への情報提供

- (1) 健康への影響等市民が知りたいと思う情報の提供が不足していたこと。
- (2) 数値とともに具体的な説明など、情報をより分かりやすい形で的確に伝えるべきであること。

5 業務継続

全ての事態に対応することは困難であるが、対応可能な事態には方針等を定めるべきであること。

¹ アスベスト含有建材は発じんの度合いにより「レベル1～3」に便宜的に分類される。レベル1には、もっとも飛散性の高いアスベスト含有吹付け材である吹付けアスベストなどが、次いで飛散性の高いレベル2には、アスベスト含有保温材、断熱材、耐火被覆材が分類される。

札幌市に対する主な提言

1 石綿問題に関する再発防止策

(1) 石綿に対する再認識

石綿やその含有物等について再認識し、点検ルールを作成するなど、計画的な対応を行うこと。

(2) 札幌市アスベスト問題対策連絡会議の活性化

石綿問題に対する総合的な対策の推進を担う当該連絡会議について、各局の所掌事務や権限等にとらわれず、市民の健康、安心感という視点からの議論も行い、活性化を図ること。

(3) 丁寧な情報発信

市民の求める情報を的確に把握するとともに、速やかな情報発信に努めること。情報提供が遅れる場合にも、その理由や提供できる時期等を伝える努力をすること。

(4) 石綿対策の着実な実施

札幌市、市教委が予定している改修等の石綿対策を計画的に実施するとともに、適切な方法により情報発信すべきこと。

2 札幌市の危機管理体制等

(1) 非常時の組織的対応の在り方

危機管理では、正しい情報を速やかにトップにあげ、各部局間の庁内連携等が十分に図られ、実効性のある取組ができるような対策本部の設置等が必要であること、非常時の組織対応について、実効性のある方針等を整えること。

(2) 市教委の組織運営

職員のコミュニケーションを活発にし、管理職の適切なマネジメントを発揮できるよう組織運営の改善に努めること。

3 業務継続体制の確立による影響の最小化

危機対応にあたっては、常に市民生活への影響を最小限にするという意識をもって取り組むこと。事前準備が可能かを見極め、業務継続を検討すべきこと。

最後に～市職員の心構えについて

札幌市の職員は、自らの所管する職務に関しては、まじめに取り組んでいると感じたところである。しかし、今回の検証の中で、市民目線で考え、必要があれば組織の枠を越えてでも対応しようという姿勢は、残念ながら感じられなかった。

今後は、より危機に敏感になり、正しく捉えることができるよう「市民感覚」を大切に、その持てる能力を十分に発揮して、市民の負託に応えることを期待する。